

番号	3 - 19	申請者	南1病棟 看護師 與賀田 純子
<p>【審査申請課題】</p> <p>進行性神経筋難病患者の移動介助における移動補助具(スライダー)使用推進への取り組み</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>当病棟は、進行性神経筋難病療養型病棟であり、すべての患者が日常生活において介助が必要である。病棟では入浴や検査の移動時は、看護師が2～3人で患者を抱え移動させている。患者を抱え移動させる動作は、狭いスペースでもスムーズに患者を移動させる利点があるが、一方で無理な姿勢で患者を抱えこむため転倒や骨折の危険性が高く、患者からも不安の声がある。また、看護師においても、患者を転倒させてしまいそうとの不安の声や、患者の関節を痛めた事例がある。そのため、病棟看護師を対象に、患者の移動方法について聞き取りを行ったところ、病棟に補助具（以下スライダーとする）があるのは全員が認識していたが、ほぼ利用していない現状があった。病棟に患者を抱えて移動することが当たり前になっている慣習があり、患者自身も現状の生活様式に固執する傾向から、生活様式の変化に対する拒否が強いのではないかと看護師側の考えにより、スライダー移行への介入ができなかったことが原因ではないかと考えられる。そのため、進行性神経筋難病患者の関節可動域や患者個人に合わせた状態をアセスメントしスタッフ間で認識を統一する必要がある。スライダー使用の理解を病棟看護師・看護助手が共通認識することが重要であり、患者自身にも移動する方法としてスライダーという補助具があり、使用方法を説明することにより安全性を理解してもらいたい。スライダーを適切に使用することにより、患者や看護師にとって安全・安楽な移動介助に繋げることができるのではないかと考えた。</p>			
審査結果	承認（令和3年5月14日）		